

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2017.9) 平成28年度:71.

下肢疾患患者の長期免荷期間がある日常生活の捉え方

高垣 茉由, 小関 瞳, 砂留 未歩, 岩崎 優加

# 下肢疾患患者の長期免荷期間がある日常生活の捉え方

キーワード：下肢疾患、免荷、日常生活、リハビリテーション、意欲

高垣菜由、小関瞳、砂留未歩、岩崎優加

旭川医科大学病院

## I. 目的

長期免荷期間がある日常生活の捉え方を明らかにし、免荷期間中の患者への看護支援の方向性を検討する。

## II. 方法

1. 研究期間：平成27年10月～平成28年1月
2. 研究対象：A病棟でリウマチ趾変形矯正手術、足関節固定術などを行い、4週間以上免荷期間を経験した患者3名。認知面の低下がなく、整形外科医師の指導のもとベッドサイドで自己で筋力トレーニングを行っている患者。
3. データ収集方法：同意を得られた研究対象者へ半構造的面接を行った。

## III. 倫理的配慮

研究対象者に目的、方法、参加の自由と途中辞退の自由、プライバシーと個人情報の保護、結果公表における匿名性の保持について口頭、書面にて説明、同意を得た。また、本研究はA病院の倫理委員会の承認を得た。

## IV. 結果

分析の結果、全体のカテゴリーは14、対象者3名に共通のカテゴリーは6であった。以下カテゴリーを【】で示す。共通のカテゴリーは、【自分なりの時間の過ごし方を考える】【病棟でのリハビリに満足している】【他者との比較】【筋力トレーニング継続の意欲】【疾患・現状に対する認識】【退院後の目標が明確である】であった。免荷期間中の患者は、【自己で日常生活を送れない不自由さ】を感じていたが、共通して【自分なりの時間の過ごし方を考える】ができていた。また、免荷期間中は【病棟でのリハビリに満足している】という認識を持ち、【他者と比較】していた一方で、【筋力回復の困難さの自覚】を持っており、患者それぞれに筋力トレーニングを行う動機があった。また、【筋力低下の経験や実感】、【免荷終了後の歩行に対する不安】があり、その結果、【筋力トレーニング継続の意欲】に繋がっていた。対象者全員に「足をつけてはいけない」という共通認識はあったが、【免荷に対する油断】が聞かれており【疾患・現状に対する認識】には患者間で違いがみられた。退院後の生活像として、元々のADLや生活背景によって退院後の生活に対する期待に違いがみられていたが、各々で【退院後の目標は明確】であった。

## V. 考察

患者は入院前の生活との違いに不自由さを感じていた

が、自分なりの対処方法を見出し、制限のある入院生活に適応しながら過ごすことができたと考える。

患者は、リハビリテーションに関して他者と比較しながらもトレーニングに必要性を感じ苦痛なく継続できていた。大泉らは、「家庭内の役割を果たしたいという思いは、リハビリの動機づけとなる。自分でできることが増えることは、自己効力感を高め、リハビリ継続の要因になる」<sup>1)</sup>と述べている。患者らは生活背景や元々のADLにより差はあったが、退院後の生活を思い描くことができ、これらが動機づけに関与していたと考える。患者は筋力回復の困難さを自覚していたが、提示されたリハビリ内容に対しての意欲は低下しなかった。患者らは筋力トレーニング継続による成功経験はなかったものの、適切な運動強度で身体的な負担とならなかったことや、免荷期間が提示されており今後の方向性が予測できたことから自己概念の低下にはつながらず、意欲の低下がなく継続できたと考える。

今回の研究を踏まえて、長期免荷期間のある患者には、治療経過や見通しを提示しながら、現在の状況やリハビリに対するフィードバックを行うこと、入院時早期より患者の退院後の目標を共有していくことで筋力トレーニングや入院生活の意欲を維持できているということが明らかになったため、今後も介入を続けていきたいと考える。

## VI. 結論

1. 長期免荷期間がある生活は、ストレスを抱えていると推察していたが、【自分なりの時間の過ごし方】を見出していた。
2. 筋力低下の経験や歩行に対する不安、【他者との比較】が【筋力トレーニング継続の意欲】を維持する要因となり【病棟でのリハビリテーション】を重要と捉えていた。
3. 免荷への共通認識はあったが、身体症状がないことなどから免荷に対する油断が生じており、【疾患・現状に対する認識】には患者間で違いがあった。
4. 患者のADLや生活背景によって退院後の生活に対する期待に違いがみられていたが、各々で【退院後の目標は明確】であった。

## VII. 引用・参考文献

- 1) 大泉綾亮ら (2013) 整形外科疾患患者のリハビリテーション開始時のモチベーションとそれに影響を与える要因, 第43回日本看護学会論文集, 成人看護II, P35-38.